

ラナンキュラス新品種「あんずてまり」の育成

浜田佳代子^{a)}, 村口 浩^{b)}, 村上 恭子^{c)}, 塚原 亜紀^{d)}

キーワード：ラナンキュラス, あんずてまり, 育種

Breeding of a New Ranunculus Cultivar 'Anzu Temari'

Kayoko HAMADA^{a)}, Hiroshi MURAGUCHI^{b)}, Kyoko MURAKAMI^{c)}, Aki TSUKAHARA^{d)}

Key words: *Ranunculus asiatics*, 'Anzu Temari', Breeding

Abstract

1. 'Anzu Temari' is a new ranunculus variety produced by crossing 'Haru Temari' with a selected line owned by the Kagawa Prefecture Agricultural Experiment Station that has orange flowers. 'Anzu Temari' has reddish-orange single color flowers.
2. If planted in early October and forced, flowers can be harvested before year-end. The ship-out rate is higher than that of 'Yuzu Temari' and 'Yuki Temari' owing to less bending of the main stem and less reduction in flower petal number in early spring.

摘 要

1. ラナンキュラスの新品種「あんずてまり」は、「春てまり」と農業試験場所有の花色がオレンジ色の選抜系統との交雑品種であり、花色は赤みを帯びたオレンジ色の単色である。
2. 10月上旬定植の促成栽培で、年内収穫が可能である。出荷率は、主茎の曲がりや春先の花弁数減少が少なく、「ゆずてまり」や「雪てまり」より高い。

緒 言

ラナンキュラスは、キンポウゲ科に属する多年草であり、近年全国的に需要が拡大している品目のひとつである。香川県のラナンキュラス栽培は、現在県下全域に拡

大しており、2000年の出荷量は715千本であったが、2022年の出荷量は2,777千本に増加し³⁾、2020年の切花出荷量は全国2位のラナンキュラス産地である⁴⁾。本県の栽培品種は、県オリジナル品種の「てまりシリーズ」が全体の約8割を占める³⁾。本県独自の種苗養成・増殖体制を整えたことにより、種苗の安定供給が可能となり、切り花の高品質化が図られ、市場から高い評価を得ている。

本県での育種目標を定植後の高温耐性、株あたりの収量性等とし、1997年から県オリジナル品種の育成に取り組んできた(村上^{5) 6)})。現在、「てまりシリーズ」は、県育成品種の「紅てまり」、「雪てまり」、「小春てまり」、「ゆずてまり」、「れもんてまり」、「藤てまり」、「恋てまり」、「春てまり」、現地選抜品種の「桜てまり」、「茜てまり」の計10品種で、安定した需要が見込まれる白、赤、黄、ピンク等の花色を中心としたラインナップと

a) 野菜・花き研究課 b) 園芸総合センター c) 環境保健研究センター d) 農業生産流通課

受理日：2023年11月10日

なっている。今回、新たにこれまでの「てまりシリーズ」に無いオレンジ色の品種である「あんずてまり」を育成したので報告する。

育成の経緯および育成経過

生産者や市場から、市場性の高いオレンジ色の品種を「てまりシリーズ」に導入する要望が多くあげられていたことから、育種目標として、花色がオレンジ色で、株あたりの採花本数が多く、腋芽節での主茎の曲がりが少ない、春先の花弁数減少が少ないものとした。2016年4月に白地にピンクのぼかし覆輪の花色を有する「春てまり」を種子親、香川県農業試験場所有のオレンジ選抜系統を花粉親として交配し、得られた種子を同年8月に播種した。2017年3月末から1次選抜を行い、系統番号「16-2-24」を付与した。開花調査終了後、塊根を掘上げ、2017年8月末からは塊根を用いた促成栽培で調査を行い、選抜を繰り返した。2020年度と2021年度に現地調査に供し、良好な評価を得た。2021年度と2022年度に収量および特性調査を行った結果、収量性、品質ともに品種として有望であると判断されたため、育成を完了し、内部で協議した後、品種登録を行うこととした。育成した品種は、「あんずてまり」と命名し、種苗法に基づく

品種登録申請を行い、2023年10月5日に出願公表された。

特性調査の概要

1. 耕種概要

栽培は、香川県農業試験場内のプラスチックフィルム温室で2ヵ年実施した。「あんずてまり」の対照品種として「ゆずてまり」、「雪てまり」を供試した。作型は促成栽培²⁾とし、定植に用いる塊根は、その年の5月末に掘上げ後乾燥保存していたものを湿らせた催芽用土（バーミキュライト：パーライト（1：1））に伏せ込み、8月末から5℃で5週間吸水催芽させ、2021年10月5日及び2022年10月3日に定植した。調査は1区10株の2反復、栽培管理は本県慣行に従い、最低気温が5℃以上となるよう管理した。採花調査は、開花始めより翌年の3月20日まで行った。

2. 品種の特性

品種特性は、農林水産植物種類別審査基準のラナンキュラス特性表¹⁾に従って行い、その結果を表1に示した。草姿に関して、葉高は31.8cm、株幅は38.8cmで、「ゆずてまり」や「雪てまり」より短い。葉に関して、葉の数は26.6枚であり、「ゆずてまり」や「雪てまり」

表－1 「あんずてまり」の主要な特性の数値データ（2022年）

形質	あんずてまり	対照品種	
		ゆずてまり	雪てまり
葉高（cm）	31.8	33.4	39.2
株幅（cm）	38.8	44.4	43.7
葉の数	26.6	35.0	45.6
複葉の形式	2回3出	3回3出	2回3出
葉身の長さ（mm）	86.5	101.8	89.7
葉身の幅（mm）	101.3	118.7	101.1
葉柄の長さ（mm）	191.0	189.2	214.7
葉の表面の色	137B	137B	137C
花茎の色	138B	137C	138B
花の大きさ（cm）	9.7	8.8	9.3
花弁の長さ（cm）	4.3	4.0	4.3
花弁の幅（cm）	3.4	3.4	3.4
花弁数	246.6	215.5	137.7
花弁内面の色	30D	12A	155C
花弁外面の色	30C	12A	155C
葯の色	N170A	14A	7A
柱頭部の色	187A	145A	144D
がく片の大きさ（cm）	1.4	1.6	1.4
がく片の色	138C	N144C	137D

※ 色の数値はRHSカラーチャートによる

より少ない。複葉の形式は2回3出である。葉身の長さは86.5mmで、「ゆずてまり」や「雪てまり」より短い。葉身の幅は101.3mmで「ゆずてまり」より短く「雪てまり」と同等である。葉柄の長さは191.0mmで、「ゆずてまり」と同等、「雪てまり」より短い。花に関して、花の大きさは9.7cmで、「ゆずてまり」や「雪てまり」よりやや長い。花弁の長さは4.3cm、花弁の幅は3.4cmで、「ゆずてまり」や「雪てまり」と同等である。花弁数は246.6枚で、「ゆずてまり」や「雪てまり」より多い。花色は赤みを帯びたオレンジ色の単色（花弁外面の花色：



図-1 「あんずてまり」



図-2 「あんずてまり」の栽培状況



図-3 「あんずてまり」の花弁、柱頭部、がくの形状
 上段左から 中心部花弁（外面-内面-外面-内面）、葯と柱頭部、柱頭部、がく（外面-内面）
 下段左から 外周花弁（外面-内面-外面-内面）

RHSカラーチャート30C)である(図-1, 2, 3, 4)。

主な生育特性を表2に示した。半数開花日は, 2021年は12月13日, 2022年は11月28日で, 「雪てまり」よりやや早く, 「ゆずてまり」より1週間程度早い。平均花茎長は, 2021年は63.4cm, 2022年は55.2cmで, 「ゆずてまり」より短い, 「雪てまり」と同等である(図



図-4 「あんずてまり」の葉の形状
(右: 表面, 左: 裏面)

-5, 6)。平均花茎径は, 2021年は5.9mm, 2022年は5.5mmで, 「ゆずてまり」や「雪てまり」よりやや太い。出荷率は, 2021年は93.5%, 2022年は88.9%で, 「ゆずてまり」や「雪てまり」より大幅に高い。これは, 主な未出荷要因である花首の曲がりや節曲がり, 春先の花弁数減少が「ゆずてまり」や「雪てまり」よりも少なかったことによるものと考えられる。特に節曲がりは, 2021年は0.4%, 2022年は0.0%であり, 「ゆずてまり」の7.4%, 9.8%と比較して大幅に低く, 花弁数減少は, 2021年, 2022年ともに0.0%であり, 「雪てまり」の10.8%, 8.5%よりも大幅に低くなっており, 秀品率の向上が期待できる。

3. 生産性

時期別の10株あたり採花本数を表3に示した。促成栽培で10月上旬に定植した場合, 「あんずてまり」は「ゆずてまり」や「雪てまり」と同様に年内から収穫が可能である。10株あたりの採花本数は, 2021年は131.5本, 2022年は161.5本で, 「雪てまり」より少ないが, 「ゆずてまり」と同等である。

4. 栽培・利用上の留意点

栽培管理は, 現在栽培されているこれまでの「てまりシリーズ」と同様であり, 本品種は10月上旬定植の促成栽培により, 年内からの出荷が可能である。栽培上の留意点として, 催芽を5℃の冷蔵処理を行った場合, 他の「てまりシリーズ」と比較して萌芽がやや遅くなること

表-2 「あんずてまり」の生育特性 (2021, 2022年)

調査項目	対照品種					
	あんずてまり		ゆずてまり		雪てまり	
	2021年	2022年	2021年	2022年	2021年	2022年
花色	オレンジ (30C)		黄 (12A)		白 (155C)	
半数開花日	12月13日	11月28日	12月21日	12月7日	12月17日	11月30日
平均花茎長 (cm)	63.4	55.2	71.4	64.6	67.4	57.5
平均花茎径 (mm)	5.9	5.5	5.6	5.2	5.3	4.9
採花本数 (本/株)	13.2	16.2	14.2	15.9	26.5	26.6
出荷本数 (本/株)	12.3	14.4	12.1	12.9	21.1	20.4
出荷率 (%)	93.5	88.9	85.5	81.4	79.4	76.5
未出荷要因						
花首曲がり (%)	1.9	0.6	2.1	1.6	3.0	4.3
節曲がり (%)	0.4	0.0	7.4	9.8	0.2	0.2
花弁数減少 (%)	0.0	0.0	0.0	0.6	10.8	8.5

※ 1区10株の2反復で調査

2021年は開花始めより2022年3月20日まで, 2022年は開花始めより2023年3月20日まで調査

花色は花弁外側の花色を示し, 花色の数値はRHSカラーチャートによる

半数開花日は, 供試した株全体の半数が開花開始した日



図－5 「あんずてまり」の切花全体

図－6 「あんずてまり」(中央)および対照品種
(左:「ゆずてまり」, 右:「雪てまり」)

表－3 「あんずてまり」の時期別10株あたり採花本数(2021, 2022年)

	あんずてまり		対照品種			
	2021年	2022年	ゆずてまり		雪てまり	
			2021年	2022年	2021年	2022年
11月下旬	—	8.5	—	—	—	5.0
12月上旬	5.5	18.0	1.5	9.5	—	22.0
12月中旬	11.5	14.0	6.0	23.5	12.5	18.5
12月下旬	16.5	17.0	16.0	21.0	25.0	10.0
1月上旬	14.5	8.5	22.5	3.0	22.5	27.0
1月中旬	5.0	7.0	11.5	16.5	13.5	24.0
1月下旬	10.0	11.0	8.0	8.0	16.5	14.5
2月上旬	6.0	14.5	5.5	7.0	20.0	18.5
2月中旬	9.5	19.5	5.5	18.0	29.0	17.0
2月下旬	9.0	10.0	19.5	11.0	23.5	17.0
3月上旬	23.0	23.0	31.0	25.0	46.0	47.5
3月中旬	21.0	10.5	14.5	16.0	56.5	45.0
計	131.5	161.5	141.5	158.5	265.0	266.0

※ 1区10株の2反復で調査

2021年は開花始めより2022年3月20日まで, 2022年は開花始めより2023年3月20日まで調査

から、催芽温度をやや高めに管理する等の対策が必要である。

引用文献

- 1) 農林水産省品種登録ホームページ ラナンキュラス
(2023年12月4日確認) <https://www.hinshu2.maff.go.jp/info/sinsakijun/kijun/1534.pdf>
- 2) 香川県 (1997) : 香川県主要花き栽培指導指針 : 193
~196.
- 3) 香川県 (2023) : 令和4年度花き産業振興総合調査
- 4) 香川県 (2023) : 統計で見る香川の農業・水産業 :
16
- 5) 村上恭子 (2012) : 日本作物学会四国支部会報第49
号「県オリジナルラナンキュラス「てまりシリーズ」
の育成」 : 74~75.
- 6) 村上恭子 (2014) : 香川園芸研究協議会々報第53巻「香
川県オリジナルのラナンキュラス「てまりシリーズ」
の育成と生産」 : 6~15.